様式５

研　究　報　告　書

学 校 名　久米島町立久米島西中学校
校 長 名　島田　毅
研究主任　新崎　昌代

Ⅰ　研究主題

SDGｓ（持続可能な開発目標）達成のための教育の充実
～ESDの視点で学校教育を見直そう～

Ⅱ　主題設定の理由

SDGｓは、2015年９月の国連サミットで全会一致で採択され、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂(ほうせつ)性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標のことをさし、その下に、169のターゲット、231の指標が決められている。SDGｓの目標達成のためには、特に学校教育において「持続可能な開発のための教育（ESD）」の推進が不可欠である。「持続可能な開発のための教育(ESD) 推進の手引」文部科学省国際統括官付日本ユネスコ国内委員会（令和３年改訂）には以下のように述べられている。

> ESDは、「地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けるための教育」であると前述しましたが、これは、地球上で起きている様々な問題が、遠い世界で起きていることではなく、自分の生活に関係していることを意識付けることに力点をおくものです。地球規模の持続可能性に関わる問題は、地域社会の問題にもつながっています。だからこそ、身近なところから行動を開始し、学びを実生活や社会の変容へとつなげることがESDの本質であり、グローバルとローカルが結びつくという感覚が重要となります。～中略～
> 一方で、ESDは、ターゲットの１つとして位置付けられているだけでなく、SDGsの17全ての目標の実現に寄与するものであることが2017年12月の第74回国連総会において確認されています。持続可能な社会の創り手を育成するESDは、持続可能な開発目標を達成するために不可欠である質の高い教育の実現に貢献するものとされています。

以上のようにSDGｓの目標達成のためには、学校の教育活動全体を通して、ESDを推進することが必要不可欠であり、喫緊の課題である。ESDに関して本校の教育活動の課題は、第１にESDの推進が個々の教師に委ねられているところである。SDGｓの視点を取り入れた教育計画・教科指導計画が作成されているが、各教育分野・各教科が単独で行う教育活動になっており、生徒自身の学びの積み重ねや、主体的な学びの場になっていない。また似たような教育活動が違う分野・教科で組まれていたり、教師がそのことに気づかないこともある。第２に、ESDの目的である生徒が主体的に探求課題を解決していく場である総合的な学習の時間が、本質的に機能していないことである。本校の地域性に鑑みた教育活動が中心となった結果、その時間だけで終わってしまうことが多い。第３に、生徒主体の活動が少ないことである。第２に述べた通り、

教育計画・教科指導計画を綿密に立てた結果、生徒の主体的な学びESDの本質である「自ら行動を起こす力を身に付けるための教育」がおざなりになっているのではないだろうか。

本校では令和５年度より、ライオン美らアクションを通して、環境教育に取り組んでおり、今年度も継続実施の予定である。今年度は、環境教育のみならず、学校教育全体を通してESDの推進を行うことにより、充実発展した教育活動になると考える。

Ⅲ　研究実践の主な内容

１．研　究　方　針

(1)SDGｓについて知ろう・考えよう

教師・生徒自身がSDGｓ（及びESD）について知らない・あるいは関心が無いことが問題の本質であり、「わかれば、気づく」視点で見方・考え方に変容が生まれ、行動・実践につながると考え、教師は主に校内研修で、生徒は教育活動全般で、SDGｓ（及びESD）について、知識を深めたり、考えたりする場を設定する。

(2) SDGｓ達成のためにやってみよう

①生徒会と連携し、各委員会が中心となって「SDGｓウィーク」の実施

②SDGｓパスポート（UNESCO）の活用（福祉教育と連携）

「SDGｓパスポート」は、平和で持続可能な社会を実現するために未来を担う児童生徒のボランティア活動を応援する目的で、ボランティア活動のスタンプ帳である。活動時間をボランとしてカウントし、３０以上ためて申請すると沖縄県ユネスコ協会から認定証が発行される。小学校から持ち上がりになる予定（令和６年度から小４～高３まで活用予定）なので、中学校でも積極的に活用する。

③授業での取り組み

・総合的な学習の時間を中心として、地域の自然環境・文化・伝統などの特色を生かした探究的な学習になるよう計画・実施・振り返りを行い、継続的な活動になるよう支援する。

・各教科の時間の取り組みでは、教科の特性を生かしたSDGｓを題材とした学習や、外部講師を招いての授業を展開し、生徒の意識を高める。

２．研　究　計　画

	対象	活動内容	担当
4/3	教師	校内研修・実践研究の内容・計画,、組織づくり、 単元配列表の作成	研究主任
4/11	全学年	総合的な学習の時間　ガイダンス	担任
4/18	２学年 総合	久米島の海の豊かさを守ろう 海岸清掃：マナティ鳥谷部愛　様	２学年
4/23	１学年 総合	久米島の生態系について学ぼう ホタル館　佐藤直美　様	１学年
5/1	１学年 総合	久米島の海・陸の豊かさを守ろう ホタル館：久米島自然を体験する　佐藤直美　様	１学年

		海岸清掃：マナティ鳥谷部愛　様	
5/13	教師	研修：学校におけるSDGｓとESD 美里高校教頭　我如古香奈子　先生	研究主任
5/16	全学年総合	SDGｓパスポートの配布と説明	研究主任
5/23	全学年総合	ワークショップ：SDGｓって何だろう 沖縄県教育庁　島袋　里映　先生	研究主任
6/4	２学年総合	ワークショップ：国際理解教育　貿易ゲームと世界 JOCA　米須理恵　様	研究主任
9/12～10/15	３学年総合	SDGｓについて、調べてみよう	３学年
10/31	２学年社会	研究授業地理的な見方・考え方、SDGｓの視点を基に関東地方についてまとめよう	社会科
11/5	３学年美術	研究授業単純化・強調で情報を整理する ひと目で伝えるための工夫　SDGｓの視点から学校で必要なピクトグラムのデザインを考えよう	美術科
11/5~11/15	全学年	SDGｓウィークの取り組み（各委員会）	全職員
12/3	２学年 ３学年 総合	ワークショップ：水循環と統合的水資源管理のための環境教育ツール「水の環ボートゲーム」 琉球大学　島袋美由紀先生、土岐知弘先生	研究主任
12/5	１学年総合	ワークショップ：世界の給食と食糧事情について NPO法人沖縄NGOセンター　奥山　有希　様	研究主任
12月	２学年国語	研究授業魅力を効果的に伝えよう SDGｓポスターの鑑賞文を書こう（３時間）	国語科
２月	全学年総合	まとめ これからのSDGｓ学習（成果と課題）次年度の提案	研究主任

３．研 究 内　容

(1)SDGｓについて知ろう・考えよう

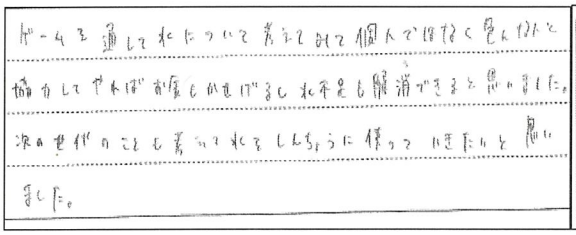
①職員研修

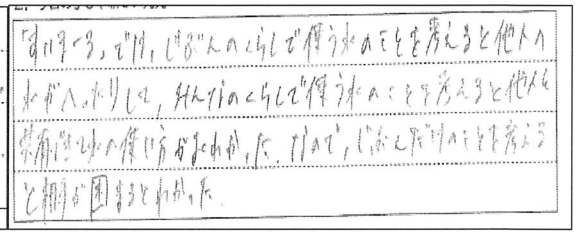
5/13 は美里高校我如古香奈子教頭先生を招聘し、職員研修を行った。SDGｓの歴史的変遷、それに伴って提唱されたESDについて、ワークショップ「スマホと世界」を体験しながら、職員の理解を深めることができた。年度当初に行ったことにより、授業構築にSDGｓ及びESDの視点が加わり、研究の推進に大いに寄与することとなった。

②外部講師を招いてワークショップの実施

②－１　「水循環と統合的水資源管理のための環境教育ツール『水の環ボートゲーム』」　琉球大学　島袋美由紀先生、土岐知弘先生

グループで協力して、架空の島での水環境のくらしを体験するワークショップを実施した。天気の悪条件や「パイプがこわれた！」「地下水汚染」などのトラブルを乗り越え、農家、畜産農家、漁師、民宿経営者に扮したプレーヤーがそれぞれの生活向上を目指しながら、皆の共有財産である水資源を枯渇させないように使うゲームを通して、「話し合って協力していくと、お金を稼いだり、水を守ることができた」「水は計画的に使うこと。自己中心で使うと（水が）なくなったり、協力して使うことが大切」という感想があった。


ゲームを通して私たちについて考えさせて個人で使わなく皆んなと協力してやればお金もかせげるし水不足も解消できると思いました。次の世代のことも考えて水をしんちょうに使っていきたいと思いました。


「計画的に使う」って聞いたけど、じぶんのくらしで使う水のことを考えると他人の水がへってしまって、みんなのくらしで使う水のことを考えると他人も共有する水の使い方がわかった。だから、じぶんと他人のことを考えると解決が図れることがわかった。

②－２　「世界の給食と食糧事情について」

NPO 法人沖縄 NGO センター　奥山　有希　様

１学年の SDGｓ学習の課題として、給食の残量が多いことが職員からあげられ、外部講師を招聘して、ワークショップを行った。世界の食糧事情や給食について、日本国内の食糧自給率、食糧廃棄量などを学んだ。翌日からは自分たちができることに取り組んでみようということで、給食残量ゼロを目標に嫌いな食材をがんばって食べたり、余った給食を分け合って食べる様子が見られた。

日付	11/8	11/12	授業後	12/6	12/9	12/10
給食残量(kg)	４．１	４．５		0	0	0

フードロスをなくすために クラスや私達に何ができるか考えて行動したいなと思いました また、栄養バランスもしっかり考えられている給食を食べられていることに感謝したいです	ぼくは、今日のリーダーシップで日本の食品ロスは年間で4万2千トンもあることがわかった。これからぼくは食品ロスを減らしていくためには自分が食べれるだけ給食を食べたり自分ができることからしていきたい。

(2) SDGｓ達成のためにやってみよう

①「SDGｓウィーク」の実施

11/5～11/15の２週間をSDGｓウィークとして、各委員会の取り組みを行った。

保健給食	№2,12：給食残量調査をして、掲示。呼びかけ
生活学習	SDGｓクイズ大会、教室ありがとう週間（美化清掃）
整美	SDGｓポスターを掲示して広報する。一人一鉢運動。
放送	給食時間に各委員会の取り組みを紹介する。 清掃時間にSDGｓの歌を流す。
図書	SDGｓの本を読んでクイズにチャレンジ
体育	№3:健康・体力向上を目指して、運動するレクを開催する。

①－１　保健委員会の取り組み

「№１飢餓をなくそう」「№12つくる責任、つかう責任」を達成するために、「給食残量ゼロ」を掲げ、給食時間の呼びかけと残量の計量を行った。

①－２　図書委員会の取り組み

「SDGｓの本を読んでもらおう」をテーマに、本の紹介、SDGｓクイズの作成を行った。

②SDGｓパスポート（UNESCO）の活用

学校からボランティア募集の案内を出して、積極的に活動に参加するよう呼びかけた。久米島マラソンエイドボランティア・海岸清掃・ＣＧＧ運動（集落内清掃）・沖縄角力運営など様々な活動に参加した。そらなみ保育園からは夏まつり運営ボランティアの依頼があり、１０名の生徒が参加した。

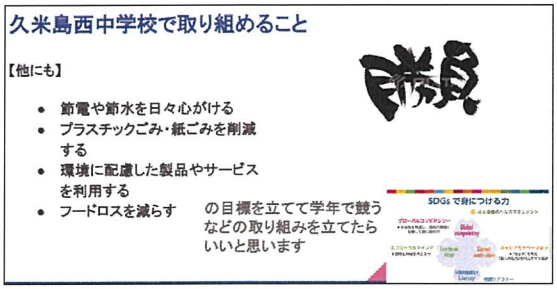
③総合的な学習の時間　久米島の自然の豊かさを守ろう

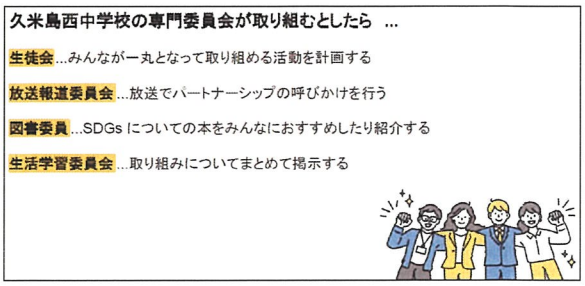
１年生は「久米島の自然の豊かさを守ろう」を目標に、久米島ホタル館の方と協力して、久米島の生態系についての講座・川遊び体験・海岸清掃を行った。

④教科の時間での取り組み　　総合的な学習の時間×美術×SDGｓ

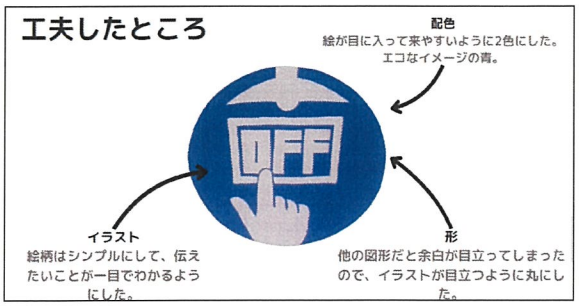
３学年では総合的な学習の時間に、「自分が興味のあるSDGｓについて調べてみよう」をテーマに探求活動として、自分たちができるSDGｓについて調べた。その知識を基に、美術科では「学校× SDG ｓ」をテーマにし、 SDG ｓの視点から学校で必要なピクトグラムのデザインを考えた。

［総合的な学習の時間の発表］





［美術科の発表］



⑤学級での取り組み

３年１組では４月当初から担任の先生や学級委員を中心に「給食残量０」を目指して、取り組みを続けている。４月は完食の日は９日しか無かったが、「食べられる量だけを配膳する、余ったご飯などは全員で等分して少しだけ余計に食べる。完食した日は掲示して記録に残す」取り組みを続け、ほぼ毎日完食できるようになり、１１月は２０日全日完食を達成した。生徒の意識からも「食糧不足のせいで飢餓になっている人がいることテレビで見たから、自分ができることをやっていきたい」「給食で完食を目指す取り組みをして、№12 つくる責任、つかる責任に興味をもった」という声があった。

４　研究実践の成果と課題

＜成果＞

・研究主題について、職員から年度初めは何をしていいのかわからないという声が多かったが、４月当初に周知徹底を図り、５月には外部講師を招いて研修を行ったことにより、職員の意識が高まり、ESD の推進を円滑に行うことができた。

・単元配列表の作成に各教科担当が積極的に関わることにより、総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な視点で ESD の推進が図られた。

・生徒会や各委員会を中心とした活動に取り組む事で、自主的な活動が行われた。

・生徒自ら、SDG s について発言が増えたり、自らの行動を振り返って改善したり新たな取り組みの提案をするようになった。

＜課題＞

・次年度は教科書改訂や行事の変更があるため、単元配列表も同じように改訂する必要がある。

・学校全体としての取り組みはまだ改善の余地がある。今年度の実践を次年度以降につなげていくための、仕組みづくりが必要である。